

熊本県小国町 様

被災状況報告アプリで即座に現場の情報を収集、迅速な初動対応に貢献 全職員がスマホやタブレットで素早く被災状況を共有、蓄積した情報は報告書作成に活用

熊本県北端部に位置する小国町は、過去の災害発生時、電話や来庁者から報告される被災状況を大判用紙に書き込み災害対策本部で共有していたが、文字だけでは規模感や場所の正確性がつかみにくい、現場を確認しても役場に戻らないと情報が共有されないという課題があった。更に、復興のための被災報告書を作成するために紙の地図を元に緯度・経度データを起こすなどの事務作業も多く、対応部署の業務量が逼迫していた。そこで、写真や位置情報とともに被災状況を報告できる「被災状況報告アプリ」を1日で作成。被災状況の素早い状況把握が可能になった。

課題・目的

- 被災場所や状況を正確により素早く把握し、迅速な初動対応につなげたい
- 現場の被災状況を確認後、報告のために役場に戻る工数を減らしたい
- 災害対策本部だけでなく、避難所の職員とも情報をリアルタイムで共有したい
- 指定期間内に国や県に提出する被災報告書等の作成に費やす工数を削減したい

選定ポイント

- プログラミング知識がなくても、素早く必要なアプリを作成できる
- シンプルな操作画面なので1度アプリを使えば、新しいアプリを職員に提供した際のマニュアルが不要
- オフラインでもアプリが使って報告する場所を選ばない
- 報告された内容はExcelやCSV形式で出力でき、報告書作成に活用できる

効果

- 被災状況を写真や位置情報付きで素早く把握でき、初動対応が迅速化
- ネットが不安定な場所でもその場で報告を完結でき、役場に戻る工数を削減
- 避難所の職員にも情報が共有され、本部に状況を問い合わせる工数を削減
- 被災報告に必要な緯度・経度情報を取得・活用でき、書類作成の負担が軽減



災害発生時には本部のモニターで町全体の被災状況を地図で共有



現場は被災状況を写真・位置情報（緯度・経度）とともに報告



ユーザーのひと言



小国町では、町の職員一人ひとりが自らの業務のあり方を見直し、効率化できる組織づくりを目指しています。規模の小さな自治体だからこそ少人数で業務を回すための効率化は必須だと考えており、アナログな業務をデジタル化するとともに業務の効率化を目指す、“現場のDX”の取り組みに力を入れています。Platioは、プログラミングを知らない職員でも現場業務に応じたアプリを作り、業務を効率化できるため、誰でも現場のDXを手軽に実現できるツールとして評価しています。

熊本県小国町長 渡邊 誠次 氏

User Profile



所在地：熊本県阿蘇郡小国町宮原1567-1

会社概要：九州のほぼ中央、熊本県の最北端、阿蘇外輪山の外側にあり筑後川の支流に位置。総面積の74%を山林が占める農山村地域で、自然は九州山脈の屋根に位置しているため変化がはげしく、夏は涼しく冬は厳しい高冷地帯であり、雨も多く年間降雨量は2,300mm、多雨多湿で森林の成育に適している。

URL：https://www.town.kumamoto-oguni.lg.jp/